

東北地方 1か月予報

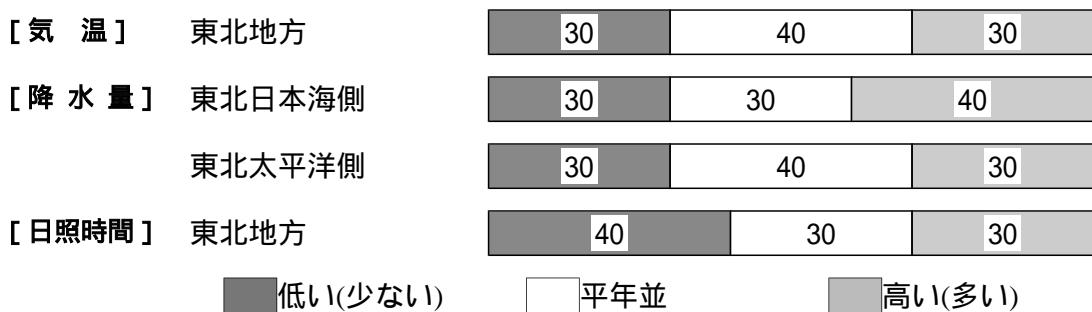
(7月11日から8月10日までの天候見通し)

平成21年7月10日
仙台管区気象台発表

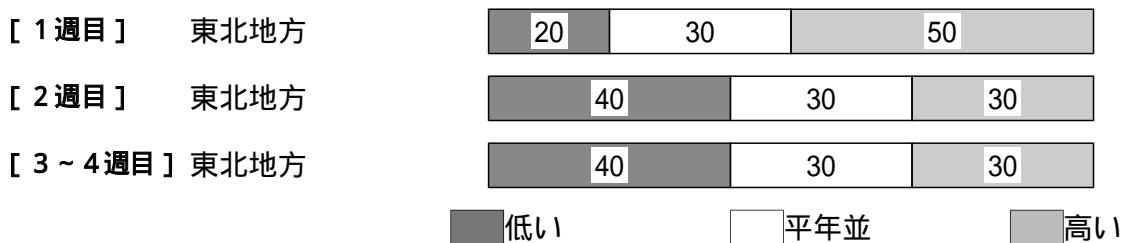
<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。気温が低くなる時期がある見込みです。
週別の気温は、1週目は高い確率が50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 7月11日(土) ~ 8月10日(月)
1週目 : 7月11日(土) ~ 7月17日(金)
2週目 : 7月18日(土) ~ 7月24日(金)
3~4週目 : 7月25日(土) ~ 8月7日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月17日
3か月予報：7月23日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	22.4	108.5	188.5	20.6	21.8	23.4
深浦	22.5	146.9	187.9	20.8	22.1	23.4
むつ	20.9	115.9	160.5	19.1	20.3	21.9
八戸	21.6	109.8	178.5	19.6	20.9	22.7
秋田	23.9	166.6	188.0	22.2	23.5	24.8
盛岡	22.9	165.7	156.7	21.2	22.4	23.7
大船渡	22.2	155.5	162.6	20.5	21.6	23.2
宮古	21.3	134.1	161.9	19.4	20.6	22.3
仙台	23.3	152.4	146.3	21.5	22.7	24.3
石巻	22.6	117.1	166.1	20.8	22.0	23.5
山形	24.3	141.3	174.3	22.7	23.8	25.2
新庄	23.4	175.4	172.9	21.8	23.0	24.3
酒田	24.3	170.9	202.9	22.6	23.9	25.3
福島	24.7	139.0	151.9	23.0	24.1	25.7
若松	24.4	147.7	190.0	22.9	24.0	25.2
白河	22.9	185.2	148.0	21.6	22.6	23.7
小名浜	22.8	115.3	177.2	21.3	22.3	23.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5 ~ +0.7	76 ~ 117	91 ~ 112
東北日本海側	-0.5 ~ +0.6	79 ~ 117	92 ~ 112
東北太平洋側	-0.4 ~ +0.9	76 ~ 117	91 ~ 116

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.9 ~ +0.8	-0.7 ~ +1.1	-0.4 ~ +1.0
東北日本海側	-0.8 ~ +0.7	-0.7 ~ +1.0	-0.6 ~ +0.8
東北太平洋側	-0.9 ~ +1.0	-0.8 ~ +1.2	-0.3 ~ +1.0

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成21年7月10日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月11日~8月10日) :

東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。気温が低くなる時期がある見込みです。
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

1週目(7月11日~7月17日) :

気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いですが、期間のはじめは晴れる日もあるでしょう。

平均気温は高い確率が50%です。

2週目(7月18日~7月24日) :

前線やオホーツク海高気圧の影響により、東北地方は平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

3~4週目(7月25日~8月7日) :

東北地方は平年と同様に晴れの日が多い見込みですが、一時、前線や湿った東風の影響で、天気がぐずつく時期もあるでしょう。

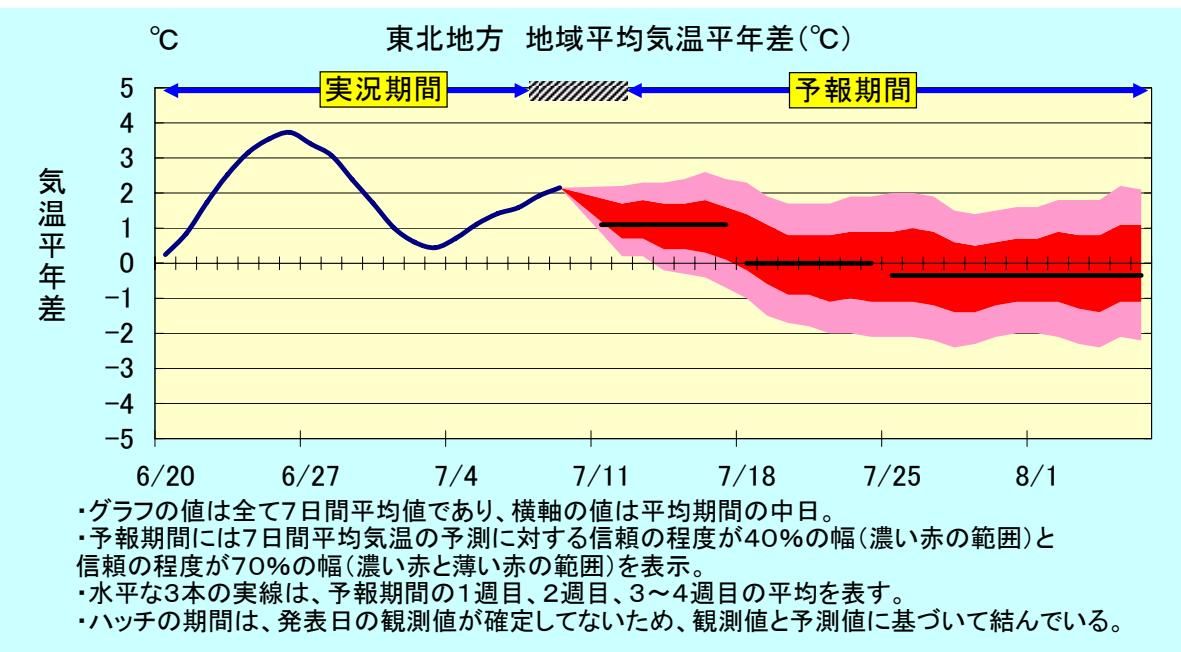
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.5日	2.7日	3.7日	8.1日
東北太平洋側	12.8日	2.2日	3.2日	7.4日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と予測資料

地域平均気温平年差の予測資料では、週別の平均気温は、1週目は平年を上回り、2週目、3~4週目は平年付近の予想となっている。

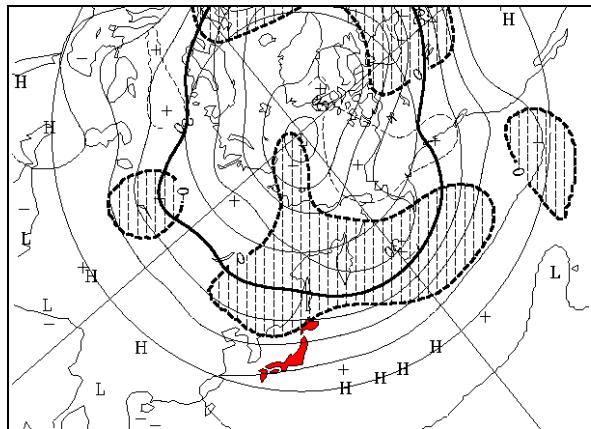


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本の南海上から本州付近にかけては正偏差。一方、極東域の高緯度や沿海州には負偏差が広がる。日本付近は西谷傾向で、期間の前半を中心に、気圧の谷や前線の影響を受けやすい見込み。また、オホーツク海高気圧の影響を受けて、気温が低くなる時期もある見込み。

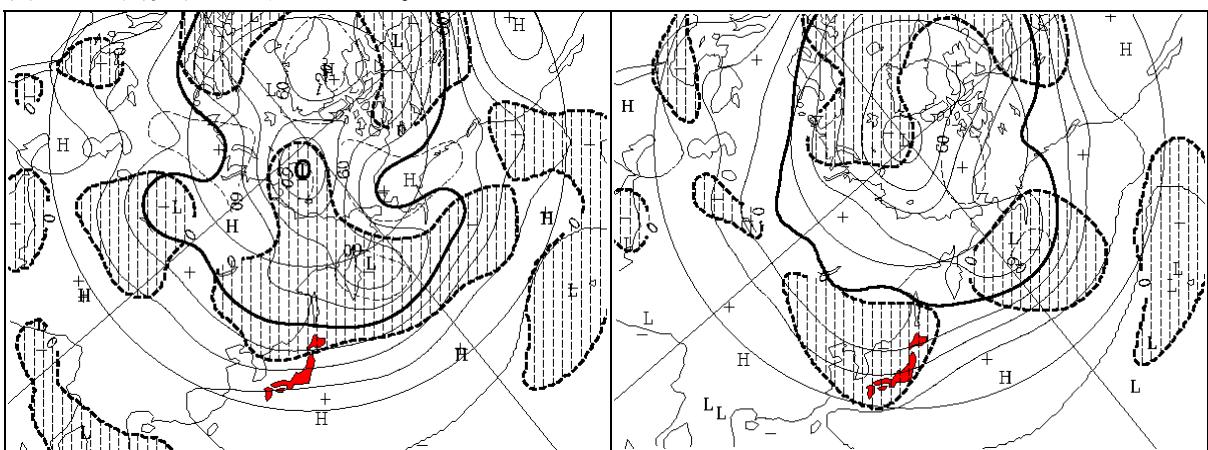
1週目: 極東域の高緯度には負偏差が広がるが、日本の南海上から本州付近にかけて正偏差で、高温傾向が予想される。前線や気圧の谷の影響を受けやすい見込み。

2週目: 日本の東海上が正偏差、日本海から中国大陸にかけて負偏差となり西谷傾向。極東域の高緯度には偏西風の蛇行が予想される。前線や気圧の谷の影響を受けやすく、また、オホーツク海高気圧が出現する可能性がある。



1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図

2週目平均 500hPa 予想天気図

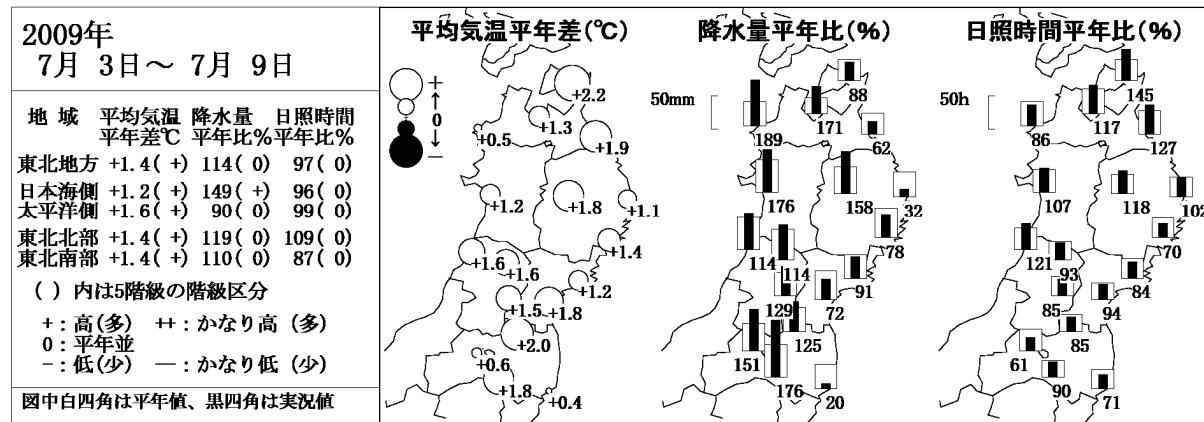
実線は、等高度線（間隔60m）、点線は、平年差（間隔60m）

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (7月3日～7月9日) の天候の経過

期間のはじめと終わりは気圧の谷や梅雨前線の影響で曇りや雨となったが、期間の中頃は高気圧におおわれ晴れた。また、期間の中頃からは、南から暖かく湿った空気が流入したため、気温の高い日が多くなった。なお、3日は大気の状態が不安定となり、山形県で竜巻による被害が、8日は低気圧の接近に伴って大気の状態が不安定となり秋田県で突風による被害が発生した。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北地方で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）